

日本実務教育学会 投稿規定

1. 投稿原稿種別

日本実務教育学会（以下、本学会）の学会誌である『実務教育学研究』における投稿原稿種別は次の5種類とし、招待論文以外の原稿種別は査読を実施する。なお、この5種類は研究水準のレベルを示すものではない。

(1) 研究論文 (Research Article)

実務教育・実務家教員に関する独創的で学術性の高い研究成果を記述したものであり、当該分野における理論・実証研究の発展に寄与すると認められるもの。

(2) レビュー論文 (Review Article)

実務教育・実務家教員に関する学術論文や事例報告等に関するレビューを行い、当該分野における現在の研究・実践の到達点や今後の方向性を明らかにしたもの。

(3) 研究ノート (Research/Practice Note)

研究論文のように知見は整理されていないものの、実務教育・実務家教員に関して今後の研究・実践の発展に結びつき得る気づきや提言を記述したもの。

(4) 実践研究 (Practical Research Paper)

実務教育の実践に関わる事例・調査結果・データ等を適切な方法を用いて多面的に考察した結果を記述したものであり、関連分野における実践や研究の発展に寄与すると認められるもの。

(5) 招待論文 (Invited Paper)

編集委員会の推薦を受けた者のみが投稿でき、原則として原稿の内容は(1)研究論文、(2)レビュー論文、(3)研究ノート、(4)実践研究のいずれかに準拠する。ただし編集委員会が承認した場合は(1)から(4)に当てはまらない内容の投稿を認める。

2. 投稿規定

- (1) 1に定める原稿種別(1)研究論文、(2)レビュー論文、(3)研究ノート、(4)実践研究の投稿者は、本学会の個人会員もしくは個人会員のグループであること。(5)招待論文のみ、本学会会員以外の投稿を認める
- (2) 原稿種別(1)研究論文、(2)レビュー論文、(3)研究ノート、(4)実践研究の執筆代表者（筆頭著者）は、本学会の会員であり、当該年度の会費を納入している者とする
- (3) 本学会の倫理規定に則り、論文等を投稿すること。
- (4) 論文等は未発表のもので、オリジナルな内容であること。ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。なお、他の学会誌・紀要等に投稿し査読を受けている場合、

二重投稿は認めない。二重投稿が発覚した場合、その後3年間投稿資格を失うものとする。

- (5) 原稿の分量は、原稿種別によって、以下のとおりとする。なお、本文とは別に、論文タイトル、著者名、所属、連絡先を記載した表紙及び和文抄録・英文抄録を付すこと。頁数には、表題、本文、図、表、注、引用文献を含み、表紙・和文抄録・英文抄録は含まない。規定頁数を超過した原稿は受理しない。

研究論文 15 頁以内

研究レビュー論文 15 頁以内

研究ノート 15 頁以内

実践研究 15 頁以内

招待論文 15 頁以内

- (6) 原稿の使用言語は日本語（横書き）とする。
- (7) 和文は、常用漢字、現代仮名遣いを用い、正しい日本語で書くこと。日本語のネイティブでない執筆者が和文で投稿する場合は、事前にネイティブの校閲を受けること。
- (8) 執筆者が複数の場合、執筆代表者を連名者の筆頭に置くこと。
- (9) 本文冒頭部に、日本語でキーワードを3～7語付すこと。
- (10) 「拙著」「拙稿」等の表現や研究助成・共同研究者への謝辞等、投稿者名や所属機関が判明・推測できるような表現は使用しないこと。ただし、これらの記載が必要な場合は、採択決定後に加筆することができる。
- (11) 全ての原稿種別において、和文抄録は600字程度、英文抄録（Abstract）は300 words程度とする。なお、英文抄録は専門家（論文内容についてある程度知識があり、英文校閲の能力があると判断されるネイティブもしくは同等の者）の校閲を経たものとする。
- (12) 原稿はMicrosoft Wordで作成すること。原稿作成にあたっては、『『実務教育学研究』原稿フォーマット』も参考にし、以下の点を厳守すること。
- ・A4横書き（1頁あたり全角40字×36行）とする。
 - ・全角文字の大きさは10～11ポイントとする
 - ・余白は上30ミリ、下35ミリ、左右30ミリとする。
 - ・本文には、適宜、見出し（前後に1行スペース）、小見出し（前に1行スペース）を付ける。「注」及び「文献」の前にも1行スペースを入れる。
 - ・「本文」「注」および「文献」は、全角文字を使用する。
 - ・英文および算用数字は、半角文字を使用する。
 - ・句読点は、読点は全角の「、」を、句点は全角の「。」を用いる。
 - ・数字は、熟語・成語に含まれるもの以外は、アラビア数字を用いる。

・略語は、一般的に用いられているものに限り使用を認める。ただし、初出時に原語（外国語の場合は日本語の訳語も）を小括弧付で付す。

・外国人名は、先頭に姓、ファーストネームやミドルネームはイニシャルのみを記載する。なお、初出時に小括弧で断り書きを付したうえで、その後は性のみもしくはカタカナ書きも認める。

Thomas Alva Edison の姓名表記：Edison,T.A.

Thomas Alva Edison の初出時例：Edison,T.A.（以下、「エジソン」とする）

Edison,T.A.（以下、「Edison」）

・見出しは、算用数字で番号を付す。小見出しには半角の両括弧付算用数字を付すこと。

・図（写真）及び表は、本文中の適切な箇所にレイアウトして作成する。なお、図（写真）及び表のある頁も、余白は指定に従うこと。また、図（写真）及び表には、それぞれ通し番号を付し、表の表題は表の上部に、図の表題は図の下部に付すこと。（図（写真）及び表が1つのみの場合であっても、図1または表1と付すこと。）

・参考文献の記述方法は以下に倣い、本文全体で統一する。

①本文中での引用は以下の例にならい「著者の姓（出版年）」の形式で明記する。括弧は全角を、数字は半角を用いる。文末に引用元を示す場合、（著者の姓, 出版年）を句点の前に示す。

例：仁志（2000）は……、

清水（2013a）によれば

……Kiyohara et al.（2015）は

……………と指摘されている（高橋・松井, 2000）。

②本文中で参照した文献は、本文末尾に参考文献としてまとめる。参考文献は和文・英文混合で、著者の姓のアルファベット順・年代の古い順に西暦で記し、同一著者・同一年の文献については、引用順に a、b、c…を付す。

③日本語の参考文献図書の場合

・著者名（刊行年）『図書名』, 出版社名.

論文等の場合

・著者名（刊行年）「タイトル」, 『雑誌名』 巻（号）, pp.○-○.

・著者名（刊行年）「タイトル」, 編者名編『図書名』, 出版社名, pp.○-○.

④外国語の参考文献（図書・雑誌名は斜体にすること）図書の場合

・姓, 名イニシャル. (刊行年) 図書名, 地名: 出版社.

論文等の場合

・姓, 名イニシャル. (刊行年) “論文等のタイトル”, 雑誌名 (*italic*), 巻:号, pp.○-○.

- ・姓, 名イニシャル. (刊行年) “論文等のタイトル”, in 姓, 名イニシャル. (ed.) 図書名 (italic) ,地名: 出版社, pp.○-○.

共著の場合

- ・姓, 名イニシャル. and 名イニシャル, 姓編者が複数いる場合
- ・姓, 名イニシャル. (刊行年) “論文等のタイトル” ,in 姓, 名イニシャル. and 名イニシャル, 姓. (eds.) 図書名 (italic) , 地名: 出版社, pp.○-○.

・注（引用文献は除く）は、脚注ではなく、文中の該当箇所に(1)、(2)…と表記し、原稿末尾にまとめて記載する。

- (13) 原稿の投稿は、学会のホームページにある指示に従いメールで提出すること。提出物は、本文・表紙・和文抄録・英文抄録（以上は全て Microsoft Word で作成のもの）・本文に用いた図（写真）及び写真の元データ（jpeg あるいは gif 形式とする）とする。なお、確認用として、図表等を組み込んだ本文の PDF も合わせて提出すること。紙媒体で提出された場合は受理しない。
- (14) 投稿締切は、毎年編集委員会が告知する期日までとする。
- (15) 原稿は返却しない。
- (16) 本誌に掲載された論文等の著作権については、本学会に帰属する。また、著作者自身が、自己の著作物を利用する場合には、本学会の許諾を必要としない。
- (17) 採択された論文等は、科学技術振興機構 J-STAGE に公開される予定である。

2021年3月15日制定

2022年6月26日改定

2024年6月23日改定

以上